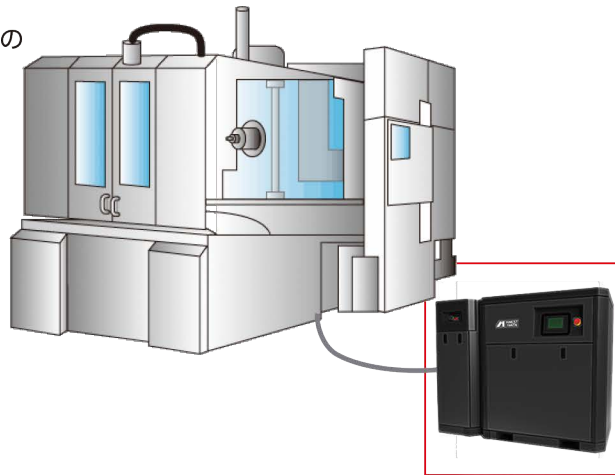


切削工程へのご提案①

ご使用中のコンプレッサにおける課題

切削工程のユーザー様ではマシニングセンター用に7.5kW(10馬力)以下の小形給油タイプ回転式コンプレッサ(スクリー式/スクロール式)をご使用されている場合が多く、その選定理由として

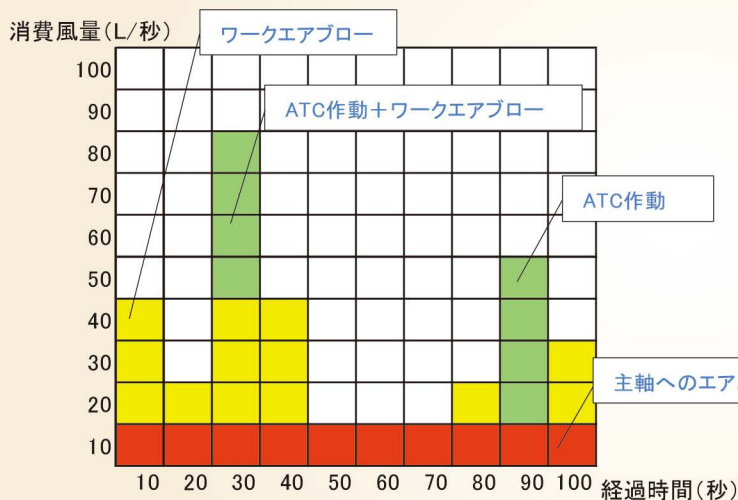
- ① 切削工場の周囲に『民家』が多く、工場から発生する『騒音』への配慮
 - ② 初期投資コスト(イニシャルコスト)を重要視
 - ③ マシニングセンターと合わせて購入
- というケースが非常に多く見られます。



Q こんな課題があります

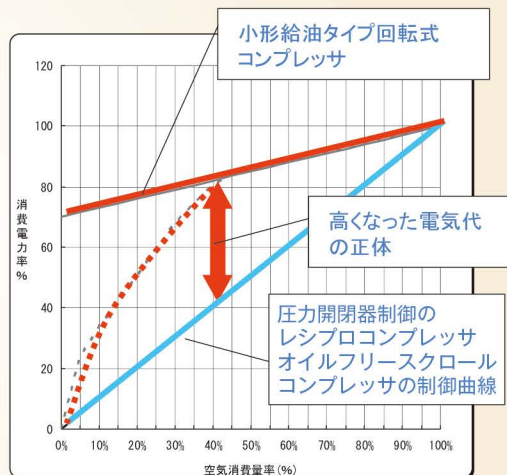
① 電気代が高くなる

マシニングセンターにおける圧縮空気の消費用途と消費パターン例



主軸へのエアパーージを除くと、ツール交換時のATC(自動工具交換装置)作動、エアブローなどの空気消費時間は「必要な時」のみ消費=断続消費となります。

小形給油タイプ回転式コンプレッサの標準的な運転制御

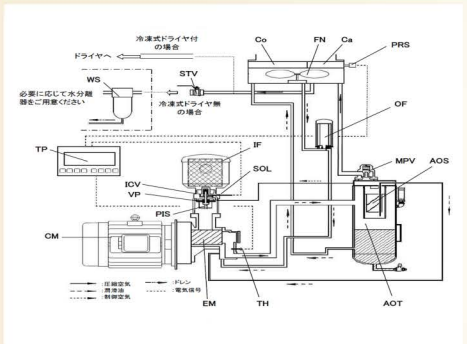


該当コンプレッサの標準的な運転制御方式は吸い込み絞り弁方式と自動発停を組み合わせた制御ですが、この制御ではエア漏れなどの僅かなエアの消費でもモーターは停止せず「回りっぱなし」となります。この時消費されている電力が電気代アップの原因です。

解決策は裏面へ

Q こんな課題があります

②メンテナンス代が高くなる



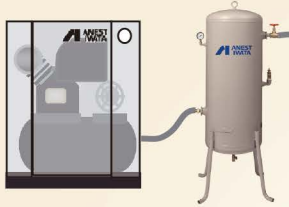
定期メンテナンスの主要項目

項目	レシプロコンプレッサ	スクロールコンプレッサ
吸込みフィルタの清掃/交換	○	○
クーラ清掃	-	○(分解洗浄)
オイル充填/交換	○(安価な鉱物油)	○(高価な合成油)
オイルフィルタの交換	-	○
セパレータエレメントの交換	-	○
電磁弁の交換	-	○
圧力調整弁の作動調整	-	○

構造的な理由による
構成部品点数の数量差は歴然。

小形給油タイプ回転式コンプレッサはレシプロコンプレッサに比べ定期的に交換が必要な消耗部品点数が多く、潤滑油も高価な合成油となります。また構造も複雑なため、作業費用もレシプロコンプレッサに比べ高価になります。

A このような解決策があります

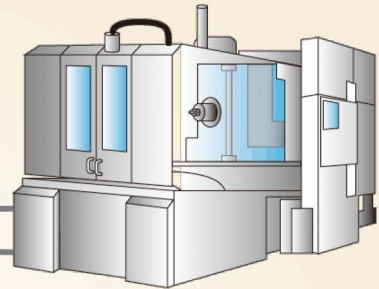


パッケージレシプロコンプレッサ

又は



オイルフリースcrollコンプレッサ



圧力開閉器制御方式の
パッケージレシプロコンプレッサ、
オイルフリースcrollコンプレッサ
に替えてみませんか？

- ・音の問題⇒解決!
- ・電気代の問題⇒解決!
- ・メンテナンス費の問題⇒解決!

※ATC用途に空気タンクを併用すれば瞬時の圧縮空気消費に耐えられます。



パッケージレシプロコンプレッサ



パッケージレシプロコンプレッサ



オイルフリースcrollコンプレッサ



オイルフリースcrollコンプレッサ

専用機として使用される用途向けには【パッケージレシプロ、オイルフリースcroll】をおすすめします!